

一、一匁六分 下人路銀
 一、百一十一匁二分七厘 驛馬一疋道程百二十四里

同江戸より大坂迄

一、路銀主、下共右同斷

馬銀道程百三十四里

一、百三十一匁五厘

木會路道

一、主人一匁五分下人八分

江戸より追分迄路銀

一、主人二匁下人一匁六分

追分より關ヶ原迄路銀

一、主人一匁七分下人一匁二分

關ヶ原より京迄同斷

一、百二十九匁三分六厘

馬銀一疋分道程百四十四里

右延享二年十月御下行所承合記置候御定。

三人參苗御國へ被遣候節覺

覺

一、二十切

文金一步

右御用人衆被仰渡、御國の人參苗一箱被遣候に付、私共中
飛脚幸領、江戸板橋迄御割場付小者二人に爲持、板橋より

金澤迄宿繼二人に爲持、道中宿々賃金中勘受申所如件。
寛保元年九月廿三日 幸領 萩原市右衛門

竹内安右衛門

山崎貞右衛門殿

寺西庄太夫殿

右之通相違無之候。以上。

井上久左衛門 印

田邊新五左衛門 印

右人參苗賃金、元文四年之御留守に被遣候砌、御用所より
指紙面出不申、御用人紙面之趣を以右賃金相渡申候。舊例
を以、此度被遣候砌も右之格を以指紙面無之、御用人紙面
に而相渡候事。

四江戸・京飛脚之儀御定

早飛脚・中飛脚割之御褒美銀覺

一、十匁

一時

一、十五匁

二時

一、二十目

三時

一、三十日

四時

一、五十日

五時・六時

一、六十日

七時

一、七十日

八時

一、八十日

九時

一、八十六匁

十時

一、早飛脚路銀十里に付二匁五分、中飛脚は十里に付一匁
六分、常飛脚は一日一匁二分充之事。

一、江戸より箱根・碓氷兩關之内早飛脚路銀十里二匁充、
中飛脚一匁二分八厘充、常飛脚は御扶持に二分充宿賃被下
候事。

但、御國之内茂右同斷、常は二分充宿賃被下候事。
一、詰人に罷越候刻、京都廻江戸に罷越候砌は、常飛脚に
而も道中路銀迄被下候事。

但、江戸より京に廻御國に罷歸候者茂右同斷。
早飛脚江戸より金澤迄

早飛脚江戸より金澤迄

一、六十時

夏三月初日より八月晦日迄

十里に四時九步七厘九毛。

同斷

一、七十四時

冬九月初日より翌年二月晦日迄

十里に六時一步四厘餘。

中飛脚

一、八十四時

夏七日

十里に六時九步七厘。

同斷

一、百八時

冬九日

十里に八時九步餘

江戸より上州坂本迄早飛脚三十二里十二町。

一、十五時

夏一日三時

同斷

一、十九時

冬一日七時

十里に四時八步餘

江戸より京に早飛脚百二十四里。

一、六十時

夏五日